

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和2年度)

## 2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(3/5)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森里海連環高津川流域 ふるさと構想特区 (益田地区広域市町村圏事務組合)	3.8	3.9 進捗度 ・路網整備と計画的施業の推進 83%  ・地域資源を活用した農村定住 ・交流促進 49%  ・高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖 99%	3.5 規制の特例等 ・地域限定特例 通訳案内士育成等事業  ・特定農業者による特定酒類の製造事業 等  地域独自の取組 ・壊れない作業路網整備事業  ・森林資源活用事業 等	3.8	<p>・観光・移住関連の低迷は、コロナ禍の影響で仕方が無い。新規就農者が増加しているが、自営、雇用とも、その後の継続・発展が重要である。鳥獣害対策は、先駆的な取り組みであり、期待したい。</p> <p>・電動アシスト自転車によるアドベンチャーツーリズムはいいアイデアだと思う。特区の自然の良さを満喫してもらうことで移住者の増加に繋げることができるかもしれない。林道の整備を通じて自転車ルートの可能性を広げることができないか。マウンテンバイクの競技会場としていく可能性も考えてみてはどうだろうか。</p> <p>・「森」については、指標の原木材生産が大きく増加している。路網の整備や燃料チップの安定的な需要、流域材の活発な利用などにより、目標には届かないものの、大きく増加していることは評価に値する。一方、乾燥材については減少傾向である。R2年度はコロナの影響もあるが、ポスト・コロナを目指してその生産技術の改善や販路についてのさらなる工夫を図られたい。</p> <p>・近年、財政・税制・金融支援の活用実績は見られない。地域独自の取組の状況は、近年は以前ほどは活発でないのではないかと思われる。</p> <p>・有害鳥獣対策が喫緊の課題となっていることがよくわかった。これは他の中山間地域でも同様であり、ここでの取り組みが何らかの突破口となることが期待される。総合特区に指定されている利点を生かすべく、この有害鳥獣対策の効果をあげるために必要とされる規制緩和の検討に期待したい。</p>